

令和7年1月23日

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

No. 234

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立助川小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、助川小学校（平子剛之校長）の成田雅道（なりた まさみち）さんです。

成田さんは日立市の出身で、助川小学校は母校です。成田さんが小学校の頃も五代桜（当時は三代桜）の周りを元気よく走り回ったり、桜をバックに手打ち野球をして遊んだりしたそうです。

理科クラブに入る前は、旧国分工場で各製造部で使用する自動機などの設備設計をする仕事をしていました。その後、製造部で、生産管理や全体のとりまとめなどの仕事もしてきました。

理科室のおじさんは、3校目になります。学校では「成田先生」「理科室のおじさん」と呼ばれ、児童にとっても親しまれています。理科の実験や休み時間に、子どもたちと話しをすることを楽しみにしています。特に、子どもたちから「これはどういことですか？なぜこうなるのですか？」と質問してもらえることに生きがいを感じるそうです。

いつも理科室にいて、実験の準備や「わくわく科学広場」の整備などを行っています。先生方とは、職員室に置いた連絡帳を使ってコミュニケーションをとりながら実験に備えているそうです。理科室で行う実験では、児童の安全を第一に考え、毎回、①注意すること、②危険なこと、③やってはいけないことを最初に説明しています。理科室のルールを、3年生から6年生まで何度も繰り返して話すそうです。児童は学習の仕方をしっかりと身に付けていると思います。

子どもたちに伝えたいのは、①理科は正解が一つではなく、どのように考えたか？そしてやり方が少しでも違っていれば別の答えもあり得ること、②間違ってもよいから自分の考えを堂々と発表し、もし間違いがわかったら直せばよいと言うこと、と話してくれました。実験結果が教科書通りにならないときに、失敗したで終わりにするのではなく、どんなやり方で実験したのか振り返って考えることを大事にしているようです。

最後に、助川小学校のよさを聞きました。助川小のモットーは「笑顔・OK・ありがとう」ですが、モットーのように、児童は、明るくそして、元気よく挨拶できると話してくれました。この取材時に理科室のお掃除に来た4年生も、明るく挨拶し、きびきびと清掃していました。

校庭にある五代桜は、100年以上児童の成長を見守っており、学校の自慢で大事にしているそうです。
※五代桜 明治38（1905）年に植樹されたソメイヨシノ。明治、大正、昭和、平成、令和の5代にわたって児童を見守っている。桜を見に来る卒業生や地域の方も多い。



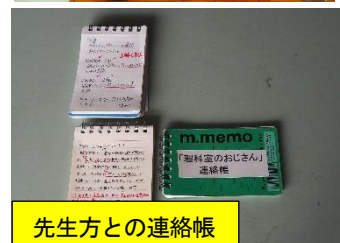
「理科室のおじさん」成田雅道さん



わくわく科学広場



実験の準備



先生方との連絡帳



五代桜（令和6年4月12日成田さん撮影）